中学生吉野作造と大槻文彦校長

東北大学名誉教授　後藤　斉

2022年度前期企画展
「吉野作造と宮城県尋常中学校の仲間たち」記念講演

2022-08-21
大崎市　吉野作造記念館

概要

大槻文彦(1847～1928)は明治期に日本初の近代的国語辞典『言海』(1889-91)を編纂した国語学者として知られている。ただし、彼の学問の出発点は洋学にあり、マルチ人間であった。

仙台在住はそれほど長くないが、旧仙台藩士として特別の思い入れを持っていた。中学校初代校長の責務を情熱をもって果たし、多くの教え子を育てた。

吉野作造は大槻校長から世界に目を向けるよう教えられ、終生敬愛を持ち続けた。国語学者大槻と政治学者吉野という定型的理解からは見えてこないが、知的関心を大槻から触発されてもいる。

目次

0. まえおき
1. 大槻文彦
2. 宮城県尋常中学校
3. 中学生吉野作造と大槻の教え
4. 恩師大槻文彦への敬愛

まえおき　自己紹介　後藤　斉　ごとう　ひとし

1991-2021年　東北大学文学部(言語学)助教授・教授
2021年3月　　同　定年退職。名誉教授に。

仙台一高出身。父は現大崎市岩出山(旧一栗村)出身。専門分野は言語学、特にロマンス語学、日本語コーパス言語学および語彙の分析、言語学史、エスペラント学など。

語彙→大槻への関心　エスペラント→吉野への関心

吉野が西洋人の日本語研究に関する論考を書いていたことを知り、二人の関係に注目。

・「吉野作造と大槻文彦 ―その敬愛と学問的影響―」『吉野作造研究』17号(2021)

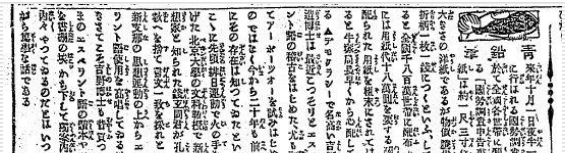
まえおき　国際語エスペラントと吉野

1887　特定の国や民族に属さない中立の国際語としてザメンホフが提案
1903　吉野「世界普通語エスペラント―」(『新人』)
1905　第1回世界エスペラント大会
1906　二葉亭四迷『世界語』。黒板勝美ら日本エスペラント協会創立。第1回日本エスペラント大会
1919 日本エスペラント学会創立

2007 第92回世界エスペラント大会(横浜)
2022 第107回世界エスペラント大会(モントリオール)

まえおき　国際語エスペラントと吉野

『東京朝日新聞』1919(大正8)年6月4日



まえおき　国際語エスペラントと吉野

吉野作造日記

1919.5.31　午後エスペラント普及講演会に出席して一場の演説す　夜燕楽軒に開かれたるその会の招宴に臨む

6.1　此日より改めて露西亜語とエスペラント語との復習を始む

6.10　朝の中雑用を済ましエスペラントとロシア語の例規の研究をやる

7.17　此頃はエスペラントとロシア語とをやつている　我ながら相当に進歩しつゝ ありと思ふ

7.21　朝一寸エスペラント講習会に出席す　会館にてやる

1922.11.23　夜はまた新聞、雑誌をよみエスペラント、和蘭語ともに朝の分をやる

まえおき　国際語エスペラントと吉野

New Thought in Japan (The Japan Advertiser 1920.4.2)

昨年夏以来、我々の幾人かが、朝鮮人や支那人の学生たちと会合し、いろいろ話し合って互いの見地を理解し合おうと試みている。これらの小会議で使われたのは日本語であるが、会議で我々の言語を用いるように要求するのは、朝鮮や支那の学生たちを平等に扱っていることにならないと感じる日本人学生が何人かいる。彼らに私達の言語を使わせ、私たちより一段下に置いていることになるからである。そこで、全く平等な立場で会話ができる言語を使う努力がなされている。この学生たちは、9月以来、自由平等に会話ができる共通言語を使う目的で、毎週一回エスペラント語を学ぶために集まっている。

（太田・宮本訳による）

1.　大槻文彦

（1847－1928）　国語学者。儒者大槻磐渓（ばんけい）の三男として江戸に生まれる。如電（じょでん）の弟。開成所、仙台藩養賢堂、三叉（さんしゃ）学舎などに学んだ。1872年（明治5）文部省八等出仕、英和辞書の編集にあたり、その後宮城師範学校校長、文部省御用掛などを歴任し、そのほか国語調査委員会委員などをも務めた。91年刊行完成の『言海』は、ウェブスターやヘボンの辞書を参照し、各語の発音、語の類別や語源、語釈、出典にわたって記したもので、国語の普通辞書として広く用いられた（のちに増補されて『大言海』になる）。また、その巻頭に付した「語法指南」に改訂を加えて97年『広日本文典』『広日本［文典］別記』を刊行したが、これは和洋の折衷文典として、文法学の基礎をなし、学校文法にも広く影響を与えた。このほか、国語調査委員会の『口語法』『口語法別記』の編集にもかかわるなど、口語研究にも新しい面を開いた。［古田東朔］

小学館『日本大百科全書』

1.　大槻文彦

主要著作

- 『言海』(1889-91)
- 『広日本文典』『広日本文典別記』(1897)
- 『口語法』『口語法別記』 (1916-17)
- 『大言海』(編纂中に没. 1932-37)

1. 大槻文彦

高田宏
『言葉の海へ』
新潮文庫

1.　大槻文彦

「仙台」は生涯、文彦のナショナリズムの根であった。

高田宏『言葉の海へ』終章

ただし、具体的な記述は少なく、あまり印象に残らない。

『言海』編纂の苦労と完成の祝宴に焦点をあてた『言葉の海へ』は名著であるが、別の視点から大槻の人生を見ることも可能。

参考サイト　「**大槻文彦の諸相**」

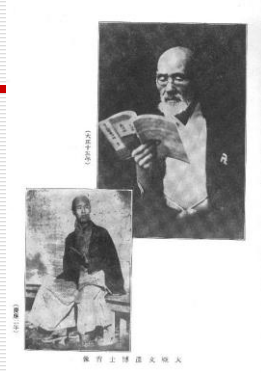
既発表資料、年譜、主要参考文献、リンク集など

https://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/fumihiko.html

1.　大槻文彦

大槻文彦肖像写真
1926

1866

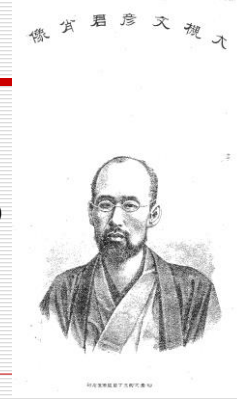


13

1.　大槻文彦

中学校長時代の
大槻文彦の肖像

『東北之少年』1巻5号(1893.6)
表紙



1.　マルチ人間　大槻文彦

「自伝」

私の学問がいかにも雑駁であると思はれよう。[…]荒物屋の店のやうで、色々の品はあるが上等のものはない。

⇒　辞書に一生をささげたというイメージは誇張

言語の学と中心としつつ、多方面への関心と絡みあっている。

終生旧仙台藩士の意識を持ち続け、仙台の教育・文化活動などに関与・援助。

綿密な考証：歴史、地理地誌、洋学(日欧交渉史)、仙台(伊達藩)…

広い範囲の活動：音楽、かな文字論、言文一致など

15

1.　洋学者　大槻文彦

祖父玄沢の蘭学を継いで、1862年、開成所に入り英学を学ぶ。一旦仙台帰住ののち、1866～67年、横浜で米国人バラらから英学の個人教授。英国人ベーリーの『万国新聞紙』の編集員(「日本最初の新聞記者」)。

翻訳書『万国史略』(1874)、『羅馬史略』(1874)、『印刷術及石版術』(1880)、『言語篇』(1885)。訳稿『亞非利加誌』(1874、宮城県図書館蔵)も。

のち、洋学史の紹介、洋学者の顕彰など。「最後の洋学者」との評も。

16

1. 教育者　大槻文彦

養賢堂で漢学・洋学修業、漢学の教員扱い(1863)

師範学校勤務（1873）

(官立)宮城師範学校初代校長（1873～1875）

第一高等中学校教諭（1886～1888）

『言海』出版 (1889～1891)

宮城県尋常中学校初代校長（1892～1895）、宮城書籍館(しょじゃくかん)(現宮城県図書館)館長を兼務

教科書の執筆（文法、日本史、漢文）

国語調査委員会主査委員 (1902～1913)

17

1.　教育者　大槻文彦

中学校長時の仙台の文化活動への協力

1892　林子平先生一百年祭(6.21)に参列し、『林子平先生年譜』(斎藤竹堂『林子平先生伝』に収録)。『仙台吟社詩』第2輯に叙。栗原郡鶯沢村(現栗原市)の「清水和兵衛君紀功碑」を撰文(翌年除幕)。伊達家陞爵運動に協力して、翌年にかけて請願書草案(一関市博物館蔵)を起草。

1893　仙台文庫会(のち宮城県図書館蔵伊達文庫に)設立に加わる。茂ヶ崎の大年寺(現太白区門前町)の「撫松小倉翁遺徳碑」を撰文[依田学海が代作](孫の歌人小倉長太郎[茗園]の依頼)。

18

1.　教育者　大槻文彦

中学校長時の仙台の文化活動への協力

1894　第二高等中学文芸部で講演「日本洋学ノ起原」。「支倉六右衛門墳墓考」(仙台市北山の光明(こうみょう)寺(現青葉区青葉町)に比定)。支倉六右衛門祭(7.1)。鈴木省三「支倉六右衛門常長之伝」を閲。松島瑞巌寺境内の「桜所石川先生寄蹟之碑」建碑にあたり賛助人。

1895　「陸奥国桃生城ノ考」(桃生城跡は現石巻市)。桜田贅庵(ぜいあん)『方言達用抄』(1827)の写本(斎藤報恩会をへて仙台市博物館蔵)を文伝正興に作らせる。

1.　教育者　大

中学校長時の仙台の

前哲林子平碑

「江戸の日本橋より唐、阿蘭陀迄境なしの水路也。」

『海国兵談』(1791)

仙台市青葉区子平町 龍雲院

1865年に父磐渓が撰文・書

1875年(宮城師範学校校長時)に文彦らが西公園に建碑

1892年(宮城県尋常中学校校長時)、林子平先生一百年祭にあたり現在地に移転　　展示No.26

1.　教育者　大槻文彦

中学校長時の仙台の文化活動への協力

1894年、伝伊達政宗画「達磨図」を購入
(1928年東北遺物展覧会に出品後行方不明、2022年再発見)。
『河北新報』2022.5.17

1.　教育者　大槻文彦

宮城県尋常中学校　初代校長（1892～1895）

東華学校（清水小路）の敷地校舎備品を借用し、生徒を編入。教育体制の整備、教職員の採用。

1892　開校式(6.6)。362名入学 (3学年で6+2+1組)

1899　南六軒丁に新校舎建設。落成式演説(7.20)と弁論部大会演説(7.23)。1907年全焼。跡地は仙台高等工業学校、のち東北大学(片平南地区)

1908　元茶畑（現仙台一高敷地）に同形の校舎建設

1909　大槻、校歌を作詞

1922　仙台一中創立三十年記念式(6.6)で講演

2.　宮城県尋常中学校

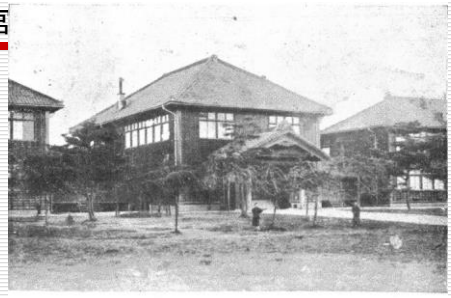
旧東華学校遺構（現二女高図書館）

2.　宮城県尋常中学校

又或時は動物内臓の模型がないので、互に拠金して兎を贖ひ料理得意の一生徒が執刀者となり、先生指示の下に腕まくりで解剖研究し、夜に及んだ事もあつた、所が面白いのは其の一方解剖しつゝある傍らから、肉を切り取り切り去り、他方に於て料理を始め、小使を助手とし兎汁と夕食とを炊ぎ、研究終了後校長並に先生を招待し、会食したことで此時の美味と愉快とは今尚忘れぬ所である

登坂伴二郎(第1回卒業生)「創立時代に於ける吾校の回顧」
『創立三十年記念号』(1923)

2. 宮



南六軒丁校舎

25

2. 宮城県尋常中学校

拙者は以前当校に関係して居つて此新築は拙者が嘗て作つた図案をそのまゝに作られたと聞いて心嬉しくて下向しました [...]抑も此建築のことは明治廿六年に始めて拙者と県庁技手山添喜三郎氏とに命ぜられたのでござる それから今年に至て落成したので正に七箇年である [...]此工事の創業から苦心をせられた人々の功労なども今となつては拙者でも話さなければ誰も知られないでござろうからその辺の概略を述べたい [...] 東京府下の大中小公私の諸学校を始めとして各府県の中学校凡そ三十余校を見めぐつて参考した

大槻「宮城県中学校落成式演説」『学友会雑誌』5号(1899)

26

2. 宮城県尋常中学校

茶畑旧校舎

2. 宮城県尋常中学校

創立の事については、何の出来ばえも、成績もなく、取立てゝ申すことは、ございませぬ、唯無事に、任務を終へたまでゞございます [...] 六軒町の新築校舎は、私の記念物でございました [...] 今の此学校の校舎は、元の校舎に、ソツクリ倣つて建てられたと承りますから、此校舎は、取りもなほさず、私の記念と思つて、永く記憶いたしませう

大槻「学術研究上の注意」
仙台一中創立三十年記念式講演
『創立三十年記念号』(1923)

28

3. 中学生吉野作造と大槻の教え

古川の町会から贈られた『言海』を携えて仙台に赴いたのであった

（吉野信次「兄の中学に入る迄」） 展示No.20

その頃郷党の少青年間の目標とされてゐた秀才[...]学校の成績は無論毎度一番であつて、いつも所謂特待生として、月謝免除であつた。

（真山青果「青年時代の吉野君」）

29

3. 中学生吉野作造と大槻の教え

好学の志向を起こさせし人としては、小学校時代の校長山内卯太郎、中学校時代の校長大槻文彦の両先生に負ふ所多く、…

「予の一生を支配する程の大いなる影響を与へし人・事件・及び思想」

時の校長は大槻文彦先生、部下の教員は今の一高教授今井彦三郎先生、府立一中教諭人見泰三郎先生、女子高師教授森岩太郎先生なんどいふ粒揃ひだつたので、私の書物趣味はいやが上にも燃えざるを得ぬ。かくして私は仙台のあらゆる古本屋の上得意となつた。 「本屋との親しみ」

30

3.　中学生吉野作造と大槻の教え

初代の校長に大槻先生を迎へたのは其人を得てゐる。[…]俗情から云へば東京に幾らもいゝ地位があつた筈といへるし、又先生好学の志望から云つても帝都を離れることは不便であつたらうと察せられる。果して先生の来任は頗る先生の迷惑とするところであつたそうだ。[…]

先生は恐らく謂ふところの教育家ではない。併し最もよく教育の骨を心得て居られた人であつた。不慣れな事務にも熱心鞅掌して三年あまりを仙台で過ごされた。[…]

「日清戦争前後」

31

3.　中学生吉野作造と大槻の教え

大槻先生は毎週一時間倫理を受け持つて居られた。[…]先生としては教場に出られる時間は毎週八九時間に上つたらうと思ふ。[…]或る年全学年を通じて林子平の伝記を講ぜられたのが今に耳底に残つて居る。先生は何か寓意するところありて講ぜられたのか否かを知らぬが、私共はたしかにこれによつて偏狭な島国根性の蒙を開かれたと思ふ。教壇の先生はまじめで而も親しみ易く、如何にも頼もしい慈父のやうであつた。全校の生徒挙つて先生に心服して居つたのは、たゞに学界の盛名におどかされた為めばかりではなかつた。[…]

「日清戦争前後」

32

3.　中学生吉野作造と大槻の教え

大槻先生は年に一度位各組全体の生徒を連れて遠足を試みられた。一年級は人数が多いので幾組かに分れ一組に四十名位づゝいる。その一組を別々に誘われたのである。[…]例に依つて和服に草履だ。大槻先生も同じ装ひで生徒と一緒に一二里の道を黙々として徒歩された。目的地につくと宿屋で簡単な食事が出る。一トくさり先生得意のその地方の郷土史話が説き聞かされる。思ひ／＼に遊び廻つて夕方また一緒に徒歩で帰るのだ。ただそれ丈けの事で、その時は格別何とも思わなかつたが、今にして想ふと先生としては能くもつとめられたものと敬服の外はない。

「日清戦争前後」

33

3.　中学生吉野作造と大槻の教え

宮武外骨翁の新収得品陳列会が[…]催さる[…]珍品少なからず　就中予に取て思出深きは二十八年発行の「青年文」なり　[…]　二冊あつたが、一冊に予の寄稿あり　松風琴坊という署名で林子平の事を書いてある　之はその頃中学に在りて修身の時間に大槻文彦先生より承つた話也　先生は林子平に関し連続講話をされたことあり　幾回続いたか憶へぬが面白いと思つたものは書留めておいた筈　青年文への投書もその一節であつたと思はる

吉野作造日記(1932.4.2)

34

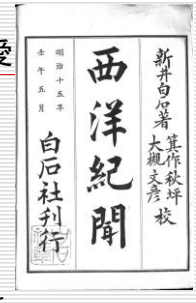
4. 恩師大槻文彦への敬愛

- 大槻校新井白石『西洋紀聞』(1882)と吉野『主張と閑談　新井白石とヨワン・シローテ』(1924)
- 「西洋人の日本語研究」(1923)ほか、西洋人日本語研究に関する吉野作造の論考
- 吉野ら在京の教え子(壬辰旧雨会)、大槻の喜寿の記念に木彫胸像を贈る(のちブロンズ像)　展示No. 60~66
- 吉野蔵書中の大槻著編訳書

35

4. 恩師大槻文彦への敬愛

新井白石『西洋紀聞』校訂　1882
1708年に屋久島に潜入して捕縛されたイタリア人宣教師シドッチを、翌年新井白石が取り調べて、世界地理やキリスト教教義について『西洋紀聞』と『采覧異言』を著述。
『西洋紀聞』は大槻らが初めて刊行



吉野の明治文化研究の手始め『主張と閑談　新井白石とヨワン・シローテ』(1924)

36

4. 恩師大槻文彦への敬愛

『西洋紀聞』の善写本は容易に見つかるまいと思つたので、よく即売展などで見かける和装二冊の活字本でも結構と折々気にかけたが、どういふものか、オイソレと見つからなかつた。或時そのことを吉野博士に話したら、博士は然もありなんといふ意味の微笑を浮かべられて「それは僕が買集めて居るのだ」と言はれ、結局その愛蔵中の一部を、私に与へられた。

井上和雄「吉野博士と『西洋紀聞』」

4. 恩師大槻文彦への敬愛

仙台一中の『創立三十年記念号』への寄稿「西洋人の日本語研究」(1923)は大槻へのオマージュ。関連テーマの論考も。

・「ドンケル・クルチウス日本文典を主題として」(『中央公論』
1923年4月号)
・「書架の前にて」(『明星』1923年4月号)
・「切支丹懺悔録」(『改造』1928年2月号-3月号)

参考:後藤斉「西洋人日本語研究に関する吉野作造の論考」
http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/yosino.html

4. 恩師大槻文彦への敬愛

[...]私は最初「日本文化の開発と大槻家との関係」を書かうと考へました。昨今非常に忙しいので、[...]之は止めました。そこで大槻先生が明治に於ける語学界の大先覚である点に因み「西洋に於ける日本語の研究」といふ題で代りの一文を草することにしました。之も[...]遂に期日に間に合ひ兼ねることになりました。[...]同じ題で私が兼々書いて見やうと企てゝ居る事の要領だけを認めることに致しました。詳細は近く別の機会で学界に公表[...]

吉野「西洋人の日本語研究」『創立三十年記念号』(1923)
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/965604

4. 恩師大槻文彦への敬愛

吉野日記

1915.11.3 夜仙台第一中学校同窓会アリ出席ス　今井先生山口十八君三浦吉兵エ君茂木幹君笹野正人君ナドノ古顔見エ感興尽キズ

1917.6.17　四時より学士会ニ行ク　仙台一中同窓会に出席の為め也　大槻先生を始め今井、森岩、森慎、今村、小林、白石、大畑、斎藤の諸先生来臨　同窓の方も三十名ばかり　極めて楽しき会合なりき

1917.12.19 夕方より学士会に行く　仙台中学校同窓会に出席のためなり　大槻先生も来らる　大元気なり　かねて名称を依頼し置きしところ壬辰旧雨会とたまはる

1918.5.4 夜壬辰旧雨会あり

1918.11.9 夜学士会に壬辰旧雨会ありて出席す

※館蔵吉野作造発信大槻茂雄あて書簡(1918.11.11。No.80)と関連

4.

大正6(1917)年6月17日恩師謝恩小宴寄せ書き
(『仙台一高同窓会報』21号(1973)表紙)　　展示No.1と関連

4. 恩師大槻文彦への敬愛

吉野日記

1923.7.16 夜壬辰旧雨会、但し大槻先生は病気にて来ず

1924.12.11 此日夕大槻先生喜字祝の宴会あり　七十七は去年だが震災騒ぎで一年延して今年やる訳　先生は誕生日を旧暦で定め毎年新暦に直してやるので日が同一でなし本年は十二月十一日に当る　僕は病後を理由として欠席する　曾村君に頼んだ木彫寿像も多分先生の意に召したことゝ思ふ

1928.4　四月末大槻茂雄君より兼て壬辰旧雨会より差上げた文彦先生の寿像を今度仙台のさる展覧会に出品するにつき箱書をしてくれと頼まる　急ぎ次の様な拙文を書いてお届けした

4. 恩師大槻文彦への

「大槻文彦先生像」

もとになった木彫像は、1924年に吉野作造ら壬辰旧雨会からの喜寿の祝い。吉野が新進彫刻家の曽村芳邨[杜芽]に依頼。曽村の妻まつは仙台出身のキリスト教思想家新井奥邃(あらいおうすい)の甥一郎の娘。

のち大槻家から仙台一高に寄贈され、1969年にブロンズ像が作られた。現在校舎内に展示。

4. 恩師大槻文彦への敬愛

http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/collection.html

東京大学大学院　法学政治学研究科附属　近代日本法政史料センター　明治新聞雑誌文庫

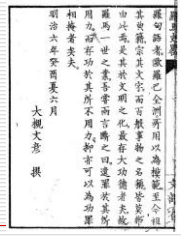
「吉野文庫」

吉野作造(1878-1933)博士の旧蔵書、和書5223部(8032冊)、洋書554部から成るコレクションです。明治文化研究のため蒐集された資料文献は博士没後、昭和九年に東大法学部が購入、以降当文庫にて保存・利用に供しています。一部資料には博士直筆の書き込みがあり、和書は主として幕末維新期から憲法制定期に出版された、特に明治10年代から20年代にかけての外国法制、歴史、政治、文化に関する翻訳書、解説書が網羅されています。

4. 恩師大槻文

『羅馬史略』

1873



4. 恩師大槻文彦への

伊達政宗南蛮通信事略

(1908再版)

概要 （再掲）

大槻文彦(1847～1928)は明治期に日本初の近代的国語辞典『言海』(1889-91)を編纂した国語学者として知られている。ただし、彼の学問の出発点は洋学にあり、マルチ人間であった。

仙台在住はそれほど長くないが、旧仙台藩士として特別の思い入れを持っていた。中学校初代校長の責務を情熱をもって果たし、多くの教え子を育てた。

吉野作造は大槻校長から世界に目を向けるよう教えられ、終生敬愛を持ち続けた。国語学者大槻と政治学者吉野という定型的理解からは見えてこないが、知的関心を大槻から触発されてもいる。

中学生吉野作造と大槻文彦校長

ご清聴ありがとうございました。